2019 年度「学部卒業生アンケート」の結果報告

黒岩薫・石田千晃
お茶の水女子大学 教学 IR・教育開発・学修支援センター

Report on the Survey for Undergraduate Student in 2019

Kaoru KUROIWA and Chiaki ISHIDA
Ochanomizu University; Center for Institutional Research, Educational Development, and Learning Support

The paper presents the results of a survey entitled “Quality of Undergraduate Education in Ochanomizu University,” which focuses on points highly evaluated by undergraduate students and challenges for the university. The survey was administered online and conducted on February 2020, which was completed by 240 undergraduate students from Ochanomizu University who are potential graduates on March 2020. Results indicate that many students are satisfied with the overall quality of education provided by Ochanomizu University. Especially, five aspects are highly evaluated: namely, “Acquisition of specialized knowledge,” “Ability to learn independently when necessary,” “Ability to explore and solve issues,” “Acquisition of general education” and “Acquisition of interdisciplinary knowledge and interests.” Conversely, the following aspects are received relatively low evaluation: “Ability to acquire unique ideas,” “Exercise of leadership,” “Acquisition of language skills and ability to adapt to a global society,” and “Ability to respond to new social systems and technological innovation, such as personal computers or the Internet.” The study proposes that these aspects can be addressed as future challenges and that the resolution of such challenges may improve the quality of education in Ochanomizu University.

keywords : university education, student evaluation, undergraduate students, ability cultivation

はじめに

本調査実践報告は、お茶の水女子大学で学部卒業予定の学生を対象に行われたウェブ調査『お茶の水女子大学の教育についての卒業生アンケート』の結果を抜粋し報告するものである。この調査の目的は、お茶の水女子大学を 2019 年度に卒業する学部学生が、大学の学部教育をどのように評価しているかを調べ、今後の教育、および研究環境の改善を図る基礎資料とすることである。本稿では、お茶の水女子大学の教育に対して、学部生が相対的に高く評価している点と改善が求められる点に焦点を当てて報告を行う。

調査概要

本調査は 2020 年 2 月にお茶の水女子大学の学部卒業予定者 487 名を対象に実施し、240 名からの回答を有効票として集計を行なった（回収率 48.25%）。調査方法はウェブ調査で、お茶の水女子大学の教学 IR・教育開発・学修支援センターが運用しているコンテンツマネジメントシステム（Plone）を使用した。回答者の学部の内訳は Table 1 の通りである。

Table 1　回答者の所属

所属	n	%
理学部　数学科	7	2.90%
理学部　物理学科	8	3.30%
理学部　化学科	13	5.40%
理学部　生物学科	15	6.30%
理学部　情報科学科	15	6.30%
生活科学部　食物栄養学科	23	9.60%
生活科学部　人間・環境科学科	13	5.40%
生活科学部　人間生活学科　発達臨床心理学講座	17	7.10%
生活科学部　人間生活学科　生活社会科学講座	14	5.80%
生活科学部　人間生活学科　生活文化学講座	5	2.10%
文教育学部　人文科学科　哲学・倫理学・美術史コース	4	1.70%
文教育学部　人文科学科　比較歴史学コース	15	6.30%
文教育学部　人文科学科　地理学コース	7	2.90%
文教育学部　人文科学科　グローバル文化学環	5	2.10%
文教育学部　言語文化学科　日本語・日本文学コース	19	7.90%
文教育学部　言語文化学科　中国語圏言語文化コース	2	0.80%
文教育学部　言語文化学科　英語圏言語文化コース	14	5.80%
文教育学部　言語文化学科　仏語圏言語文化コース	5	2.10%
文教育学部　言語文化学科　グローバル文化学環	7	2.90%
文教育学部　人間社会科学科　社会学コース	3	1.30%
文教育学部　人間社会科学科　教育科学コース	7	2.90%
文教育学部　人間社会科学科　心理学コース	9	3.80%
文教育学部　人間社会科学科　グローバル文化学環	2	0.80%
文教育学部　芸術・表現行動学科　舞踊教育学コース	6	2.50%
文教育学部　芸術・表現行動学科　音楽表現コース	5	2.10%
合計	240	100.00%

Copyright 2019. Ochanomizu University. All right reserved.

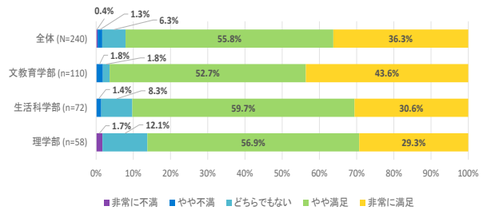

Figure 1　お茶の水女子大学の教育全般への満足度

調査結果（評価されている点に関して）

獲得スキルと教育満足度の相関

教育全般に対する評価について 5 件法で尋ねたところ、55.8% の学生が「やや満足」、36.3% の学生が「非常に満足」と回答した（Figure1）。5 件法の加重平均（「非常に満足＝ 5 点」、「やや満足 =4 点」、「どちらでもない =3 点」、「やや不満 =2 点」、「非常に不満 =1 点」として、平均点を算出）は、4.26 であった。学部別にみると、文教育学部の満足度が生活科学部、理学部よりも若干高いことがわかる（Figure1）。

同様の調査項目を設けている『第 2 回全国大学生調査』[*1] の結果では、大学の授業全般に対して「ある程度満足」「満足」と回答した学生の割合はそれぞれ 65.0%、7.1％と示されており（東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター , 2019）、この結果と比較した場合、お茶の水女子大学の学生が大学教育全般に対して満足している割合（92.1%）は高い傾向にあると考えられる。

また、お茶の水女子大学の教育で獲得した知識やスキルについて、細分化した設問で評価を尋ねた。各々の質問項目は、「全般的な人格形成」、「一般教養の獲得」、「専門知識の獲得」、「領域を超えた学際知識や興味の獲得」、「課題を探求し問題解決する能力の養成」、「ユニークな発想」、「必要に応じて自ら学習できる能力」、「リーダーシップの発揮」、「語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得」、「組織や対人関係など自分を取り巻く環境に柔軟に対応する力の獲得」、「パソコンやインターネットなどの技術革新や新しい社会システムに対応できる」、「対話や討論などのコミュニケーション力」の 12 項目で、それぞれについて「非常に役に立つ」から「全く役に立っていない」の 5 件法で学生の評価を尋ねた。この質問項目に対しても加重平均を算出し学部別の比較を行なった（Figure 2）。

加重平均は、「非常に役に立つ =5 点」から「全く役に立たない =1 点」の 5 点満点で算出した。この算

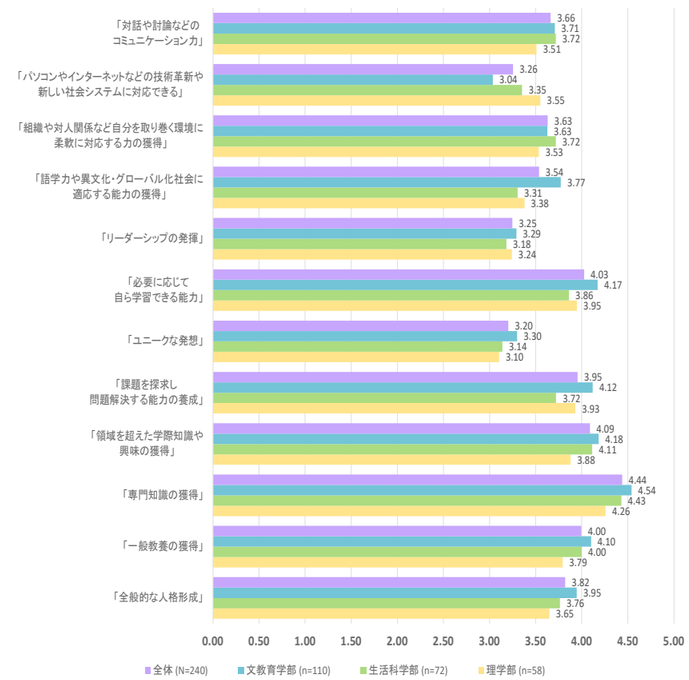

Figure2　大学教育に対する評価（項目別平均点）

出結果から、特に学生に高く評価されている点が、次の三点である。第一に「専門知識の獲得」で、これは 3 学部のいずれにおいても最も評価が高く（全体平均 4.44 点）、「やや役に立つ」または「非常に役に立つ」を回答している学生の割合は全体で 9 割を超えていた。第二に、「必要に応じて自ら学習できる能力」（全体平均 4.03 点）や「課題を探求し問題解決する能力の養成」（全体平均 3.95 点）といったような、自ら主体的に学ぶ能力を身につけるのに、お茶の水女子大学の教育が役立っていると学生は評価している。第三に、「一般教養の獲得」（全体平均 4.00 点）や「領域を超えた学際知識や興味の獲得」（全体平均 4.09 点）といった、専門分野に加えて幅広く知識を獲得することにも大学教育が役立っていると学生は評価していた。

これらの能力の養成や知識・スキルの獲得と、同調査内の別質問項目で聴取したそれぞれの授業満足度がどの程度相関しているのか分析した（Table 2）。授業満足度は、13 カテゴリの授業に関して「非常に満足 =5 点」から「非常に不満 =1 点」の 5 件法で尋ねている。相関分析にあたっては SPSS Statistics ver.24 を使用し、ピアソンの相関係数を算出した。また Table2 において、弱い程度の相関（0.2<|r| ≦0.4）と中程度の相関（0.4<|r| ≦0.7）を示した場合には太字で、それぞれの数値を表記した [*2]。

「専門知識の獲得」に対する評価と授業満足度との相関について、13 個の授業カテゴリのうち 10 カテゴリが有意な正の相関を示し、特に、「専門・専攻科目（演習・実習・実験）」（r= .45, p<.001）と「専門・専攻科目（講義）」（r= .46, p<.01）は中程度の正の相関があった。これら 2 カテゴリに加えて、「専門・専攻科目（卒論・卒研）」（r= .33, p<.001）、「情報」（r= .32, p<.001）、「基礎講義」（r= .28, p<.001）、「外国語（英語）」（r= .26, p<.001）、「外国語（英語以外）」（r= .20, p<.01）、「教職科目」（r= .20, p<.05）にそれぞれ満足している層が、お茶の水女子大学の教育における「専門知識の獲得」という面に対しても高い評価をする傾向があることを示している。

次に、「課題を探求し問題解決する能力の養成」に対する評価と授業満足度との相関について、相関の程度はいずれも弱いものの、「専門・専攻科目（演習・実習・実験）」（r= .34, p<.001）、「教職科目」（r= .33, p<.001）、「キャリア教育」（r= .31, p<.01）、「専門・専攻科目（講義）」（r= .28, p<.001）、「基礎講義」（r= .27, p<.001）、「専門・専攻科目（卒論・卒研）」（r= .25, p<.001）、「リベラルアーツ演習・実習・実験科目」（r= .23, p<.01）、「外国語（英語）」（r= .22, p<.01）、「情報」（r= .21, p<.01）、「文理融合リベラルアーツ」（r= .20, p<.01）にそれぞれ満足している層が、「課題を探求し問題解決する能力の養成」という面に対しても高い評価をする傾向がある。

Table 2　評価されている能力養成の項目と授業満足度との相関

	専門知識の獲得	課題を探求し問題解決する能力の養成	必要に応じて自ら学習できる能力	一般教養の獲得	領域を超えた学際知識や興味の獲得
1. 文理融合リベラルアーツ	.183 **	.195 **	.256***	.464***	.334***
2.　リベラルアーツ演習・実習・実験科目	.125	.227 **	.294***	.451***	.321***
3.　外国語（英語）	.256***	.224 **	.243***	.296***	.192 **
4.　外国語（英語以外）	.196 **	.125	.335***	.218 **	.112
5.　情報	.320***	.213 **	.216 **	.229***	.198 **
6.　基礎講義	.283***	.274***	.260***	.330***	.167 *
7.　スポーツ・健康	.185 **	.129 *	.237***	.218 **	.201 **
8.　教職科目	.195 *	.328***	.305 **	.220 *	.200 *
9.　専門・専攻科目（講義）	.452***	.276***	.283***	.131 *	.259***
10. 専門・専攻科目（演習・実習・実験）	.463 **	.336***	.296***	.132 *	.198 **
11.　専門・専攻科目（卒論・卒研）	.329***	.246***	.235***	.205 **	.209 **
12.　インターンシップ	.209	- .064	.097	.130	.024
13.　キャリア教育	.182	.313**	.231**	.160	.159

*p < .05, **p < .01, ***p < .001

「必要に応じて自ら学習できる能力」に対する評価については、「インターンシップ」を除くすべての授業カテゴリと有意な正の相関があることが分かった。有意な相関がみられた授業カテゴリは相関係数が大きい順に挙げると、「外国語（英語以外）」（r= .34, p<.001）、「教職科目」（r= .31, p<.01）、「専門・専攻科目（演習・実習・実験）」（r= .30, p<.001）、「リベラルアーツ演習・実習・実験科目」（r= .29, p<.001）、「専門・専攻科目（講義）」（r= .28, p<.001）、「基礎講義」（r= .26, p<.001）、「文理融合リベラルアーツ」（r= .26, p<.001）、「外国語（英語）」（r= .24, p<.001）、「スポーツ・健康」（r= .24, p<.001）、「専門・専攻科目（卒論・卒研）」（r= .24, p<.001）、「キャリア教育」（r= .23, p<.01）、「情報」（r= .22, p<.01）である。これらの点から、お茶の水女子大学の教育全体でこの能力の育成を促していると考えられる。

つづいて、「一般教養の獲得」における大学教育への評価と授業満足度との相関について、特に「文理融合リベラルアーツ」（r= .46, p<.001）、と「リベラルアーツ演習・実習・実験科目」（r= .45, p<.001）で中程度の相関がみられた。「文理融合リベラルアーツ」とは、お茶の水女子大学で教養教育の改革がなされた結果、2008 年からはじまったカリキュラムのひとつである（お茶の水女子大学 , 2019）。5 つのテーマ（「生命と環境」、「色・音・香」、「生活世界の安全保障」、「ことばと世界」、「ジェンダー」）について、文系・理系の分野を横断しながら複数の授業を通して多面的に知識を獲得し、かつ読解・思考・コミュニケーションに必要な能力を養成することを目的としている（お茶の水女子大学 , 2019）。よって、自分の関心に基づいて授業を履修しながら、自分の専攻とは異なる知識を学習することが「一般教養の獲得」に対する評価につながっていることが推察される。また、上述した 2 つの授業カテゴリに加えて、「基礎講義」（r= .33, p<.001）や「外国語（英語）」（r= .30, p<.001）、「情報」（r= .23, p<.001）、「教職科目」（r= .22, p<.05）、「外国語（英語以外）」（r= .22, p<.01）、「スポーツ・健康」（r= .22, p<.01）、「専門・専攻科目（卒論・卒研）」（r= .21, p<.01）といった授業に満足している層も、「一般教養の獲得」という面に対して大学教育を高く評価している傾向がある。

最後に、「領域を超えた学際知識や興味の獲得」に対する評価と授業満足度との相関をみると、相関がみられたものの中でも、「文理融合リベラルアーツ」（r= .33, p<.001）や「リベラルアーツ演習・実習・実験科目」（r= .32, p<.001）が相対的に相関の程度が強く、これは「文理融合リベラルアーツ」における「領域を横断しながら学ぶ」という上述した目的と整合していると考えられる。「専門・専攻科目（卒論・卒研）」（r= .26, p<.001）や「専門・専攻科目（卒論・卒研）」（r= .21, p<.01）、「スポーツ・健康」（r= .20, p<.01）、「教職科目」（r= .20, p<.05）、「情報」（r= .20, p<.01）、「専門・専攻科目（演習・実習・実験）」（r= .20, p<.01）とも有意な正の相関がみられた。

複数プログラム選択履修制度

「専門知識の獲得」に関して、お茶の水女子大学で実施されている専門教育課程、「複数プログラム選択履修制度」について補足を加える。「複数プログラム選択履修制度」は 2012 年度から導入された新しい専門教育課程で、学生が所属する学科やコース（講座）を超え、自身の希望に沿って 2 ～ 3 つのプログラムを組み合わせて履修することができる（お茶の水女子大学 , 2017）。学生の所属する学科（またはコース・講座・環）で開設されている「主プログラム」が第 1 プログラムとして必修となるが、第 2 プログラムは所属している学部で開設されているものの中から選択することができ、「専門領域に深く特化するなら強化プログラム、複数の専門領域を横断的に学ぶなら副プログラム、領域融合型・学際型を目指すなら学際プログラム」（お茶の水女子大学 , 2017）といったように、学生のニーズに合わせた学びにつなげることをねらいとしている。また、希望者は第 3 プログラムの履修も可能である（お茶の水女子大学 , 2017）。

今回の調査では、調査対象となった学生が、複数プログラム選択履修制度においてどのプログラムを第二プログラムとして履修したか尋ねた（Figure 3）。

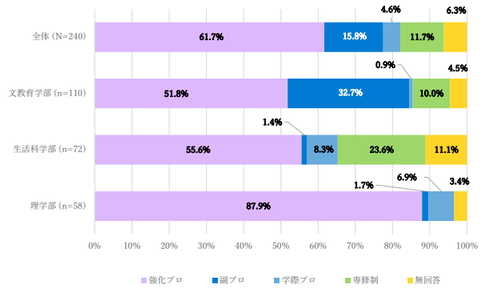

Figure 3　第 2 プログラムの履修状況

Table 3　相対的に評価が低かった能力養成の項目と授業満足度との相関

	ユニークな発想	リーダーシップの発揮	語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得	パソコンやインターネットなどの技術革新や新しい社会システムに対応できる
1. 文理融合リベラルアーツ	.206 **	.148 *	.257***	.122
2.　リベラルアーツ演習・実習・実験科目	.274***	.283***	.242 **	.234 **
3.　外国語（英語）	.272***	.086	.351***	.236***
4.　外国語（英語以外）	.139	.080	.306***	.119
5.　情報	.271***	.144*	.233***	.496***
6.　基礎講義	.244***	.116	.223***	.301***
7.　スポーツ・健康	.181 **	.108	.187 **	.375***
8.　教職科目	.263 **	.115	.097	.304**
9.　専門・専攻科目（講義）	.244***	.257***	.163 *	.090
10. 専門・専攻科目（演習・実習・実験）	.213 **	.211 **	.177 **	.124
11.　専門・専攻科目（卒論・卒研）	.222 **	.216 **	.171 **	.173 **
12.　インターンシップ	- .056	.056	.045	.012
13.　キャリア教育	.324 **	.393***	.264 **	.315 **

*p < .05, **p < .01, ***p < .001

「強化プログラム」を履修した学生の割合が最も多く、文教育学部では 51.8%、生活科学部では 55.6%、理学部では 87.9% であった。

調査結果（改善が求められる点に関して）

獲得スキルと教育満足度の相関

上述のような点が評価されている一方で、どのような面で更なる改善を目指すことができるのかに着目し、いくつかの調査項目に対する結果を報告する。

Figure 2 で示した加重平均の値を参照すると、「ユニークな発想」（全体平均 3.20 点）、「リーダーシップの発揮」（全体平均 3.25 点）、「パソコンやインターネットなどの技術革新や新しい社会システムに対応できる」（全体平均 3.26）の 3 項目で相対的に評価が低いことがわかる。さらに、「語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得」（全体平均 3.54 点）は全体平均として低くはないようにみえるが、文教育学部に比べ、生活科学部と理学部の評価が相対的に低い。

そこで、これらの能力の養成や知識・スキルの獲得と、同調査内の別質問項目で聴取したそれぞれの授業満足度がどの程度相関しているのか分析した（Table 3）。Table2 と同様、ピアソンの相関係数を算出し、弱い程度の相関（0.2<|r| ≦ 0.4）と中程度の相関（0.4<|r| ≦ 0.7）を示した場合には太字で、それぞれの数値を表記した。

まず、大学教育への評価の中で相対的に最も評価が低かったのは「ユニークな発想」の獲得であったが、この項目と授業満足度（13 カテゴリ）との相関をみると、「キャリア教育」（r= .32, p<.01）が相対的に強い相関があるが、太字で表示した他の 9 カテゴリ（「リベラルアーツ演習・実習・実験科目」（r= .27, p<.001）、「外国語（英語）」（r= .27, p<.001）、「情報」（r= .27, p<.001）、「教職科目」（r= .26, p<.01）、「基礎講義」（r= .24, p<.001）、「専門・専攻科目（講義）」（r= .24, p<.001）、「専門・専攻科目（卒論・卒研）」（r= .22, p<.01）、「専門・専攻科目（演習・実習・実験）」（r= .21, p<.01）、「文理融合リベラルアーツ」（r= .21, p<.01））と同様、相関の程度は弱い。「ユニークな発想」の涵養のために、学生が大学教育に求めるニーズをさらに詳しく調査し、全体のカリキュラムを見直し改善することが、今後の方策として考えられるのではないだろうか。

お茶の水女子大学では「女性リーダーの育成」をミッションとして掲げられており（お茶の水女子大学，2018）、「リーダーシップの発揮」は重要な項目のひとつといえる。これに対する評価と授業満足度との相関をみると、「キャリア教育」（r= .39, p<.001）、「リベラルアーツ演習・実習・実験科目」（r= .28, p<.001）、「専門・専攻科目（講義）」（r= .26, p<.001）、「専門・専攻科目（卒論・卒研）」（r= .22, p<.01）、「専門・専攻科目（演習・実習・実験）」（r= .21, p<.01）で弱い正の相関があった。キャリア教育や専門教育課程の内容を充実させるなどの改革が行われた場合は、今後の調査で「リーダーシップの発揮」などの項目のスコアがどのように変動するか、注視すべきであろう。

同調査では、「女性リーダーの育成」というお茶の水女子大学のミッションに対する賛否も尋ねている。調査結果では、各学部の 7 ～ 8 割がそのミッションに賛成を示していたが、実際に女性リーダー育成プログラムへ参加したことがあると回答したのは 2 割を下回っていた。上述したように、「リーダーシップの発揮」を促すような教育の充実がキャリア教育や専門教育課程で図られる際には、学生本人が自ら主体的にリーダーシップを発揮することに意欲的になるかどうかが重要となる可能性がある。

つづいて、「語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得」に対する評価と授業満足度との相関をみてみると、「外国語（英語）」（r= .35, p<.001）と「外国語（英語以外）」（r= .31, p<.001）との相関が相対的に強く、語学科目のどのような点が課題となりうるのかは、別途調査してもよいだろう。また、「キャリア教育」（r= .26, p<.01）、「文理融合リベラルアーツ」（r= .26, p<.001）、「リベラルアーツ演習・実習・実験科目」（r= .24, p<.01）、「情報」（r= .23, p<.001）、「基礎講義」（r= .22, p<.01）とも弱い相関が示された。これらの科目がどのように改善されることで、「語学力や異文化・グローバル化社会に適応する能力の獲得」につながっていくのか、今後調べる必要があると考えられる。

最後に、「パソコンやインターネットなどの技術革新や新しい社会システムに対応できる」という能力獲得における大学教育への評価と授業満足度との相関について、特に「情報」（r= .50, p<.001）への満足度と中程度の相関がみられた。また、「スポーツ・健康」（r= .38, p<.001）、「キャリア教育」（r= .32, p<.01）、「教職科目」（r= .30, p<.01）、「基礎講義」（r= .30, p<.001）、「外国語（英語）」（r= .24, p<.001）、「リベラルアーツ演習・実習・実験科目」（r= .23, p<.01）とも有意な正の相関を示したが、これらの背景については詳細なデータをとる必要があるだろう。

まとめ

上述した点を総括すると、お茶の水女子大学の教育は、知識・教養の獲得といったような、既存の枠組みの中で優れたパフォーマンスを行う能力を伸ばしているという点で、学生から特に評価されていると考えられる。一方、何か新しいことに積極的に携わるといった面での能力育成の充実という点では充分に評価されているとはいえず、今後の大学の教育における大きな課題と考えられる。

今回の調査に回答した学生の 6 ～ 7 割が「女子大学の意義」を感じており、ジェンダーバイアスにとらわれることなく「のびのびと過ごせる環境」が女子大学の意義であるという自由回答がみられた。個々の学生の個性を尊重しながら能力を育成するという長所を維持しつつ、様々な個性の集まりから新しい「知」の創出を目指す環境を構築していくことが、上述の課題の解決にもつながっていくかもしれない。

また、女性リーダーの育成に力を注いでいることに関して、「女子大学という場所は、女性がリーダーシップをとりやすい貴重な環境であった」と肯定的な意見も自由回答にみられ、この点は女子大学の意義のひとつといえる。しかし、女性だけがいる環境に限らずリーダーシップが発揮できるように、学生のリーダーシップを育てていくことも重要だと考えられる。また、別の自由回答では、「家政学や語学といった学問だけでなく、政治、経済、医療などの分野でも活躍するような人材を育成していくことが必要」といった回答もみられた。大学側がどの分野におけるどのような女性リーダーの育成を目指しているのか、どのように社会で活躍することができるのかを具体的に示していくことも今後の課題と考えられる。

注

*1　2018 年に 77 大学の学生 32,913 人を対象に実施された。

*2　相関の程度の基準として、田淵（2017）によって示されている数値を参考にした。

参考文献

お茶の水女子大学（2017）「複数プログラム選択履修制度」，お茶の水女子大学ホームページ， http://www.ocha.ac.jp/campuslife/popp/index.html）.

お茶の水女子大学（2018）「基本的教育理念」，お茶の

水女子大学ホームページ， http://www.ocha.ac.jp/introduction/info/philosophy.html）.
お茶の水女子大学（2019）『平成 31 年度　お茶の水女子大学履修ガイド』.
田淵六郎（2017）「変数間の関連」轟亮･杉野勇編『入門･社会調査法――2 ステップで基礎から学ぶ』法律文化社 , pp.179-194.
東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター（2019）『第 2 回全国大学生調査　第 1 次報告書』, http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/%E3%80%8E%E7%AC%AC2%E5%9B%9E%E5%85%A8%E5%9B%BD%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%94%9F%E8%AA%BF%E6%9F%BB%EF%BC%882018%EF%BC%89_%E7%AC%AC%EF%BC%91%E6%AC%A1%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E3%80%8F%20ver.4.pdf）.

2020 年 3 月 22 日　受稿